

令和7年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業
「不登校やひきこもりの初期介入支援と自立支援サポート事業」



研修会 1 回目：講師：峯上良平氏

「斜めからのまなざし」～訪問看護で支える、10代の心と暮らし～
報告書

- 1、開催日時：令和7年6月7日（土曜日）
- 2、開催場所：県電ホール
- 3、参加者数：70名
- 4、テーマ

第1部：講演「斜めからのまなざし」～訪問看護で支える、10代の心と暮らし～

第2部：トークセッション・質疑応答

アンケートの分析結果（49名）

1. 満足度の傾向

【講演（峯上良平氏）】

- ・「とても満足」：31名、「満足」：14名と、9割以上が高評価。
- ・特に「とても満足」が多く、講演の内容や話し方に対する評価が非常に高いことがうかがえます。

【トークセッション】

- ・「とても満足」：21名、「満足」：17名、「普通」：5名。
- ・回答者の大多数が肯定的な評価を示しており、講演と同様に高く評価されています。

2. 自由記述コメントの傾向

【講演コメント】

- ・「生活リズムや栄養の大切さ」や「訪問看護の具体的な支援内容」に触れた感想が多数。
- ・「自分の支援活動と重なる」「早期介入の必要性が分かった」など、実務に直結する学びが多かったことがわかります。
- ・一部に「話が早口」「声が聞き取りづらい」といった改善要望も見られました。

【トークセッションコメント】

- ・「当事者の声を聞けた」「信頼関係構築の大切さがわかった」といった実感的なコメントが目立ちました。
- ・「支援者としての姿勢を考え直すきっかけになった」「誠実な関わりの大切さが伝わった」など、内省的な気づきを得た参加者も多かったようです。
- ・ただし、「声が聞き取りにくい」「マイクの音量が不十分だった」との指摘も複数ありました。

【イベント全体に対する感想】

- ・最も多かったのは「音が聞こえづらかった」という会場の音響に関する指摘内容に対する不満ではなく、運営面での改善余地があるといえます。
- ・内容面では、「実践に役立つ」「視野が広がった」との肯定的意見が多く、講演とトークセッションの相乗効果が感じられた様子です。
- ・「当事者の声が貴重」「訪問看護と引きこもり支援の連携に気づけた」など、学びや気づきに富んだ評価が目立ちました。

【主催法人へのメッセージ】

- ・「今後も参加したい」「Zoom開催を希望」など継続や拡張を望む声が多く見られました。
- ・「とても有意義だった」「ぜひ次回も」「応援しています」など、主催者への感謝や応援のメッセージが多数寄せられ、参加者の満足度の高さがうかがえます。
- ・初参加者からの「また参加したい」との声も多く、広がりの可能性も感じられます。

3. 属性情報の補足

- ・性別：女性が約6割とやや多めで、参加者の関心の高さがうかがえます。
- ・年代：30代～50代が中心で、支援現場の実務者や関係者による参加が推測されます。
- ・居住地：宮崎市が過半数を占め、地元密着型であるとともに、日向市、日南市、都城市、えびの市など県内各地からの広範な参加が見られます。
- ・イベントを知ったきっかけ：最多は「知人（19名）」、次いで「ちらし（11名）」「SNS」「HP」となっており、人的ネットワークの活用が広報に効果的であることが示唆されます。

4 総括と提案

- 本研修会は、講演・トークセッションともに非常に高い満足度を得ており、「実践的」「共感的」「具体的」といったキーワードが浮かび上がりました。
- 一方で、音響に対する不満が複数見られ、次回はマイクチェックや音量設定の見直しが強く求められます。
- 「Zoomなどのオンライン配信」や「定期開催を希望する声」も多く、今後はハイブリッド開催や定例化を検討する価値があります。
- 「支援活動に役立つ」「もっと関わりたい」といった前向きな声が多く、次回以降はボランティア募集や参加型企画を通じて、継続的な関わりを促すことが期待されます。



アンケートの自由記述のコメント

1. 峯上良平氏講演へのコメント

- 生活リズムの改善、栄養が基礎、大切さ。(色々な人がいて、社会は、世の中は、すてたもんじゃないと感じてほしい)
- フリースクールの子も達との関わりで普段から感じていること。
- 早寝・早起き・朝ごはんの大切さを改めて感じました。
- ところが整うことで本人の意識や意欲が出てくるし、広がっていくと実感しました。
- ひきこもり、不登校に訪問看護があることを知れた。
- 自分の体験があるため、相談者の気持ちがとても理解して接している所。
- 人との関わり方の大切さ、改めて勉強になりました。
- プロセスとその理由まで説明があり、支援時に役立つ感じたため。
- 支援の仕組みを最後まで本気で考えて実行されているのが伝わってきた。
- 行動指針が私自身の考えと重なりました。わかりやすかった。
- 不登校・ひきこもりの子の訪看の支援について知ることができてよかった。
- 就労を意識された支援をされているところ。

- 内容が具体的でイメージしやすかった。
- 早すぎて、ポイントがつかみづらかった。
- 就労移行支援との関わりを知ることができて良かったです。
- 自身の経験から事業展開され、ひとりでも多くの方を社会復帰できるサポートをされていて勉強になった。
- 現在支援している利用者様に結びつく内容もあり、今後の支援につなげて行きたい。
- 不登校の児童にはその児に合った関わりが必要。
- 支援の具体的なイメージが出来、訪問看護がどういうものか理解出来た。
- 実態とその対応事例を知ることができて良かったです。
- 具体的な支援が勉強になりました。
- 精神科訪問看護で大切な事が分かりやすかった。
- 関わり方、アプローチの仕方が勉強になりました。
- 研修を受けさせてもらったことで、不登校・ひきこもりの子供に対するイメージが緩和されました。ありがとうございました。”
- 不登校や引きこもり介入支援で考え方や対応方法がとても勉強になりました。
- 関わり方がためになりました。
- 会社として取組みと訪看の取込みを具体的に聞くことができ、実践してみたい内容が多数ありました。
- 訪問看護の役割が幅広いことに驚いた。
- 訪看の利用役わりについて、理解できた。
- 早目の支援が大切だと感じた。
- 訪問看護の立ち位置が明確で、その後の就労やその方の生き方につなげていく方法や過程が知れて良かったです。ありがとうございました。
- 訪問時の傾聴について、日々行っている事ですが、お話がきけなかったです。
- これから事業拡大に向けて、環境に心して個人（看護）と向かい合いながら支援する事の大切さを学んだ。
- わかりやすかった。症例も含めてあり、良かったと思う。
- 訪問介護の取りくみがわかった。
- 新しい不登校支援として、早い段階で必要な親子に利用できたらいいなと思った。宮崎はまだまだ不登校支援も充実していないので広まってほしい。
- 社会とのつながりを取り戻す際に、どうしても「通所」等の人と直接コミュニケーションをとらなければならない場に目が行きがちですが、オンラインで完結できる就労の仕方があることに興味をもちました。

2. トークセッションのコメント

- 本音で話し、力になる。
- 当事者の気持ちが聞けて良かった。
- 信頼関係の大切さ。
- 理解することの大切さ。

- 作業しながらのおしゃべり”
- 内田さんの紹介が詳しくあると（あったかもしれないが聞こえづらかった）よかった。
- 傾聴、相手に興味を持つ等難しいことですが大切な事と再認識しました。
- 具体的なお話がきけてよかった。
- 支援するために、まずはなかよくなる、似ていることをさがす、など共感できる所が多かった。
- お二人のお人柄、優しさが伝わってきました。子ども達や当事者さん、ご家族に対するお気持ちや姿勢など、参考になりました。
- 精神科訪問看護をよく紹介しています。
- 傾聴・共感感の話が良かった”
- 単に傾聴共感するのではなく、誠実に関わるのが大事であることを改めて学んだ。
- 専門職同士でのつながりがなかったため、必要に応じて連携を図り支援の幅を広げていきたいと感じた。
- 問題がわかりやすかった。
- トーク内容と、自の求めている課題内容が少し重ならず見えてこなかった。
- パネラーの方の話が聞きずらく、何を話しているか、はっきりわからなかった部分があった。
- リアルな声を聞いて良かった
- 信頼を得る、関係性と構築する上で、お互いを知る・自分を話すことで（自己開示）相手も話すことがある等、私達の訪問での最初の段階を捉えており、共感出来るトークでした。
- 尊厳を大切に、一緒に遊び楽しんで信頼関係を構築することが大切だと思いました。
- 支援者としての在り方や心持ちなど、自身のスタンスを振り返ると同時に、今後、どうしていきたいかを考える上で、とても参考になりました。
- 声が聞こええづらかった
- 支援者同士のつながり、共通認識をもつことの大切さを再確認した。
- 人と人のつながり、信頼をつくっていくための関わり大切だと再認識させていただきました。
- 看護者（利用者）が無意識に日常生活に携さる機会を作れるかを寄り添いながら、支援させる事を学んだ。
- 色々な形の支援の仕方があり、選択肢も増やせた。
- 包括的に関連できる専門職が増えることで、よりピンポイントなアプローチができるのではと考えました。



3. イベント全体を通してのコメント

- 早い段階でのつながりの大切さ・理解の大切さ、居場所に信頼関係→仲良くなれる。
- 貴重なお話しありがとうございました。
- とても学びになりました。
- 社会全体が型に合わせたり、他人と同事をさせることを良しとする指導が主流で個人に合わせたり、待つといった行動はできないと感じてました。
- 自分が今まで働いていた所は自分に合わず苦しくなり、結果やめました。こんな自分の目指す事に近い思いを実現されている方がおられるのを本当に嬉しかったです。
- この機会を全画して下ってありがとうございます。
- 普段の業務に生かせそうな話もあり、学びになりました。
- ありがとうございます。
- 訪問看護のスタッフと利用者との距離感の大切さ、言葉（発する言葉）発言の大切さ。
- スピード感と対応力、その対象者の居場所の確保の流れをつくることの大切さ。
- 対話、アプローチの仕方のヒントが学べた。
- 他の職種（一般職や行政など）に対して発信力が大きいと感じました。
- 小さなことの積み重ねなのかもしれませんが、協力してくれる人が多いと当事者の将来の選択の幅も広がるだろうなと感じました。
- 現在ひきこもりや不登校の児童に対しての支援を行っているが、様々な視点、支援の幅が広がる有意義なイベントであった。
- 今後も定期的なイベント参加をしていきたい。
- 固定観念にとらわれず、児童には病気以外の何かが心の中に隠れていることを意識して関わっていく必要がある。
- 訪問看護の可能性を感じた。ただ、診断がない方は、利用出来ないのを残念に思った。
- 実態とその対応事例を知ることができて良かったです。
- 事例も聞いて、どの様に不登校、引きこもりの方と関わっていけばいいか知る事ができた。
- とても勉強になりました。
- 当事者の価値感を伸ばす、自己理解のやり方、人生感に刺激を与えていけるように様々な方と関わっていきたいと思えました。
- 大変勉強になりました。訪問看護と福祉との連携は、更に必要だと感じました。
- 大変学びになりました。
- 会場から、もっと質疑が出ると良いと思いました。
- 本人や家族が原因が分からない中、孤立してしまうことに対して、特性や個別性を理解して対応すること。生活リズムが基盤になることが重要だと分かりました。
- 外国での対応方法の違いなども教えて頂き、良かったです。今後も知識を深めて

いきたいと思いました。

- ライフワークからのライフワークの考え方が面白いと思いました。
- 訪問看護でできること、やりたいことが更に増えました。
- 成人の利用者さんと関わる中で、考え方や習慣の再構築には多大な時間を要することを実感しています。改めて、お子さんの支援を充実させる支援者が増えるために、努力していきたいと思いました。
- “訪問看護ステーション”と“ひきこもり支援”の連動という発想がなかったので、とても良いヒントを得たと思います。
- 生活を整えると、栄養から身体を整えることが脳の働きを整える、という事実を改めて確認できた。
- 生の声の現崎での問題解決に向けた取り組みや、活動のヒントが聞けて、今後の行動や意識するきっかけが出来そうな気がした。
- 幅広い知識をもつこと、専門の力をかりて支援することが当事者にとって利益となることを感じた。ありがとうございました。
- 宮崎での支援を楽しみにしています。
- 不登校でも、子供たちの未来は守られている。助けてくれる大人はいる。ゆっくり休んで、家族や第三者に支援してもらい、また社会とつながってほしい。
- ケアの礎として、まずは人と人との信頼関係を構築する必要性があると改めて感じるができました。

4. 宮崎もやいの会へのコメント

- もやいの会様企画の講話に初めて参加しました。
- 自分のために、相手のために、なりますので、今後またイベントがありましたら参加したいです。
- Zoomとかでもあると遠方からなので助かります。
- 貴重なお話しが聞けて、今後の勉強になりました。
- 居場所担当としての心がまえ等参考にします。
- 今日は有難うございました。
- このような活動をされている所があるのを初めて知りました。
- 私も何かお力になる事があれば…と思いました。
- 地域の課題について、先進的な取組をしている方々の話を直接聞く機会を設けていただき、ありがとうございます。
- とても有意義な研修会をありがとうございました。頑張ってください。
- がんばって下さい。いつも研修や講演ありがとうございます。
- また、この様な研修をお願い致します。
- 自身のスキルアップになりました。
- ぜひ、次回も参加させて頂きたいです。
- 今後も応援しています。
- 応援しています。
- 医療と福祉の連携について理解の深まる講演会を開催いただき、ありとうござい

ました。

- 今後不登校の支援につながる連携をしていきたい。
- どのような活動をしているのか、くわしく知りたい。

